



人と化学の未来をめざして

マナック株式会社

CSR報告書

2017

MANAC Incorporated CSR Report 2017

編集方針

“生命の源”と言われる海水の資源から生まれたマナックにとって、地球環境を守ることは使命のひとつです。ステークホルダーはもちろん、地域社会の人々に信頼される企業を目指し、責任ある企業活動を行っています。

本報告書では、「マネジメント」、「環境への取組み」、「安全衛生への取組み」、「社会との関わり」の4部構成で、持続可能な社会の実現に貢献するための様々な取組みをご紹介します。

今後とも、CSR活動に取り組むとともに、皆さまとのコミュニケーションを図り、よりわかりやすい編集を目指していきます。

■ 報告対象期間

2016年4月～2017年3月

■ 報告対象組織

マナック株式会社を対象としています。なお、マナックグループの概要、財務ハイライトはマナックグループ連結の数値です。

■ 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版（G3.1）」

CONTENTS

編集方針	1
ごあいさつ	2
マナックグループの概要	3
マネジメント	
企業理念	4
経営理念	4
事業活動	4
グローバル・マナック	4
コーポレート・ガバナンス	5
リスク管理	6
コンプライアンス	6
環境への取組み	
マテリアルフロー	7
環境マネジメントシステム	7
省エネルギー	8
地球温暖化防止	9
廃棄物削減	9
化学物質の排出管理	10
環境への配慮	10
安全衛生への取組み	
安全衛生管理体制の確立	11
健康の保持増進	12
心の健康づくり	12
保安・防災	13
化学物質安全・物流安全	13
社会との関わり	
地域活動	14

お問い合わせ先

マナック株式会社（管理部 総務）
TEL : (084) 954-3330
FAX : (084) 953-8523
E-mail : info@manac-inc.co.jp

競争力のある優れた製品・ソリューションを提供し、世界市場でマナックの存在感強化を目指します。



代表取締役社長

杉之原 祥二

マナックのルーツは、江戸時代から瀬戸内の海で行われていた製塩業にさかのぼります。1948年（昭和23年）の設立以来、地元の美しい海から生まれた技術を進化させ、医療分野やIT分野をはじめとする先端技術産業からの「高度なニーズ・潜在的なニーズ」にお応えすべく製品開発を進めています。

そしていま、マナックは「社会的存在価値のある製品を提供し続ける」という信念のもと、グローバル・マーケットを目指して、臭素化・ヨウ素化のコアテクノロジーをもってさらなる技術革新に挑み、高機能製品・高付加価値製品の提案を通じてスペシャリティーケミカルの可能性を追求してまいります。

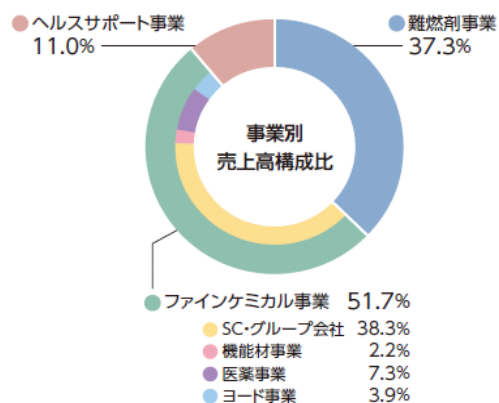


創業の地 松永湾の塩田風景

マナックグループの概要

会社概要 2017年3月31日

商号 マナック株式会社
設立 1948年（昭和23年）5月
従業員数 191名（グループ従業員数317名）
資本金 17億5,750万円
証券コード 4364



事業所

本社 東京都中央区日本橋3丁目8番4号
大阪営業所 大阪市中央区北浜3丁目5番22号
福山工場・研究所 広島県福山市箕沖町92番地
郷分事業所 広島県福山市郷分町950番地の1

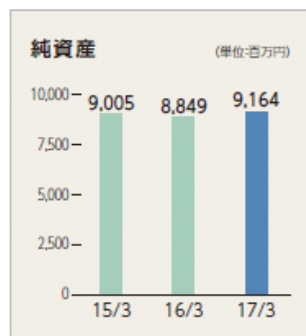
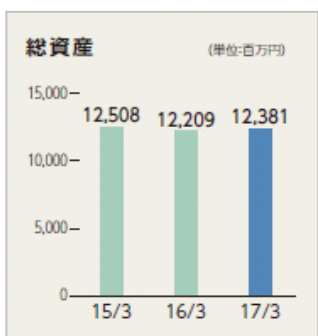
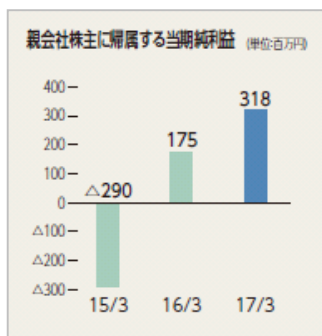
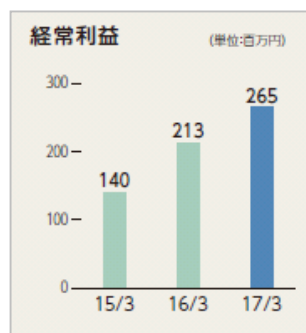
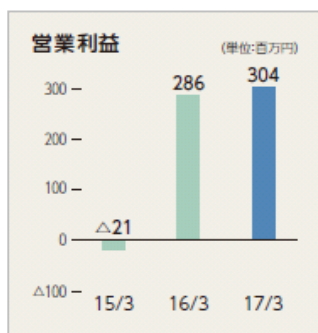
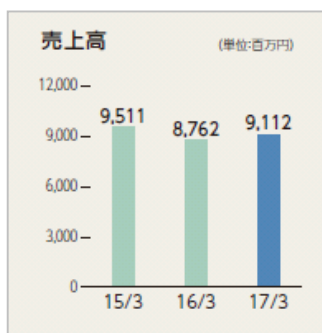
子会社

マナック（上海）貿易有限公司（中国・上海市）
 八幸通商株式会社
 南京八幸薬業科技有限公司
 エムシーサービス株式会社

関連会社

ヨード・ファインケム株式会社

連結決算ハイライト



マネジメント

企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会からも注目される会社をめざし、常に『革新』

事業活動

当期における世界経済は、米国で個人消費が底堅く推移し、また中国経済の減速傾向にも歯止めがかかりました。欧州における英国のEU離脱の影響も限定的だったこと等により、緩やかに拡大いたしました。

日本経済は、個人消費の回復は遅いものの、企業業績が回復している等の要因から、全体として緩やかな回復基調となりました。

このような経営環境のもとで、当社グループは高付加価値製品の開発、国内外における新規市場の開拓、既存市場・既存製品の深耕、新規事業の展開に積極的に取り組んだ結果、当期は増収増益となりました。

グローバル・マナック



- ・「先を見据える」
- ・売上高から「利益を積上げる」へ
- ・国内市場+海外から「国際市場」へ
- ・モノづくりから「売れモノづくり」へ

株主の皆様並びに社会に対する責任を自覚し、経営資源の最適活用を図り、長期的、継続的な株主価値の最大化を実現するとともに、社会規範に沿った事業活動を行い、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の最重要課題のひとつと位置付けています。

基本方針

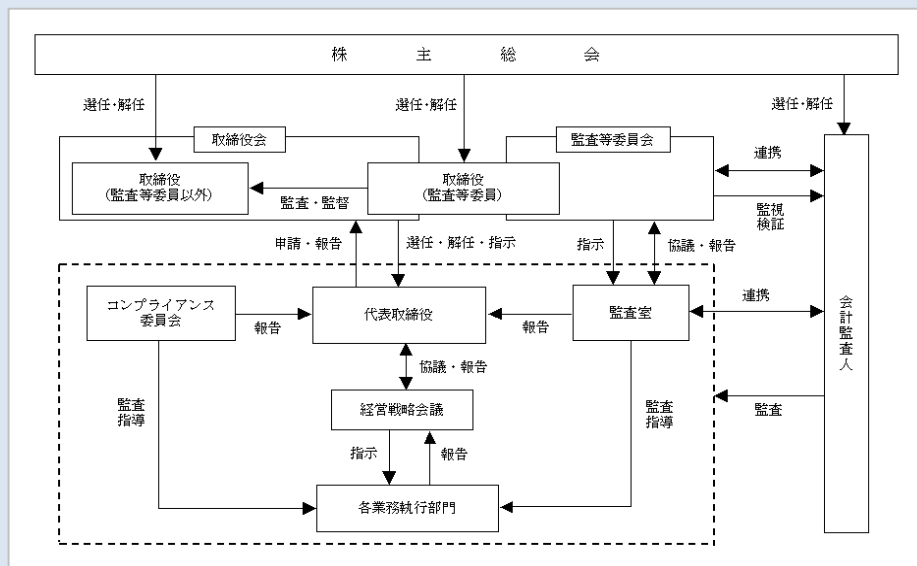
当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本方針について考え方を定めております。詳細は下記HPをご参照ください。

コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

<http://www.manac-inc.co.jp/manac/pdf/governance.pdf>

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態 監査等委員会設置会社



コーポレート・ガバナンス体制図

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項

ガバナンス体制については、当社の企業規模や事業内容を総合的に判断して、監査等委員会設置会社形態が最適であると判断しており、監査等委員である取締役3名（うち独立役員として指定する者が2名）で構成される監査等委員3名体制で取締役の業務執行の監督機能向上を図るとともに、取締役の業務執行及び企業活動の適法性、妥当性について監査しております。また、当社の属する化学業界や事業内容全般についての知識・経験のある社外取締役1名を、監査等委員である取締役以外の取締役に選任し、監督機能の実効性向上を図っております。

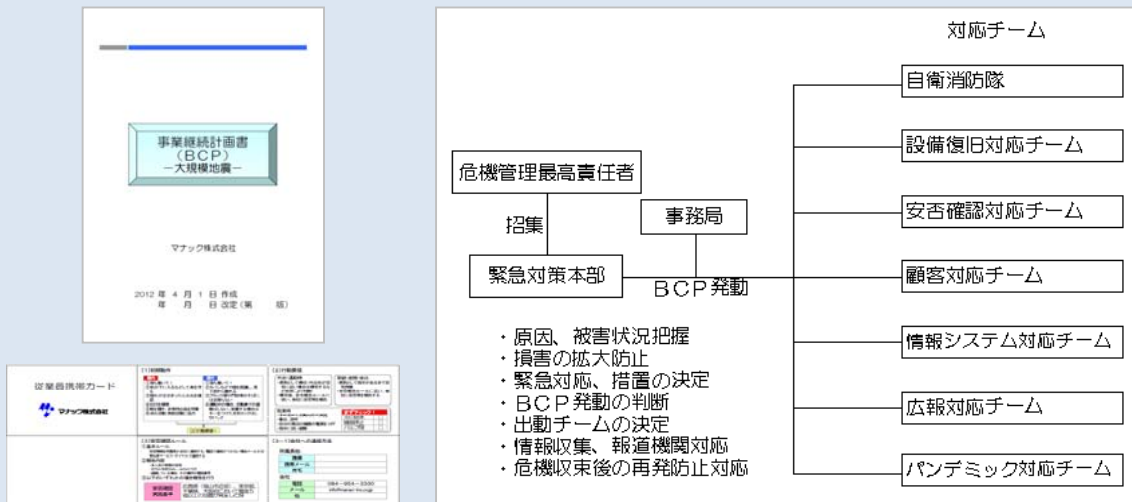
3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

「会社法の一部を改正する法律」（平成26年法律第90号）により、監査等委員会設置会社制度が創設されたことを踏まえ、業務執行に対する取締役会の監督機能の強化及び社外取締役の経営参画による透明性・効率性の向上を目的として、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行し、更なるコーポレート・ガバナンスの強化を図ることを目的として、現状の体制を選択しております。

マネジメント

リスク管理

常にさまざまなリスクをあらかじめ念頭において事業活動を行っています。それらのリスクに対応するために、事前の備えと事後の措置として、各種規程を定め、リスクを最小限のものにするために必要な社内体制を確立しています。また、大規模地震を想定した事業継続計画（BCP）に加え、インフルエンザなどパンデミックへの対応も行っています。



コンプライアンス

「企業行動憲章」に基づいた企業活動を通じて、公正で透明性のある企業を目指すとともに、当社のステークホルダーをはじめ一般社会からの確固たる信頼を確保し、企業の社会的責任を果していきたいと考えています。

企業行動憲章

2006年7月制定
2013年4月改訂

私たちは、スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献するためにこの企業行動憲章を定めます。私たちは、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図り、社会的存在価値のある製品を提供し続けたいと考えています。

1. 私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、高い倫理観をもってグローバルな事業活動を展開します。
2. 私たちは、良き企業市民として、公の秩序に従い、信義誠実な行動を行うと共に社会貢献に努めます。
3. 私たちは、会社情報を適正に管理し、適時、適切に情報開示し、公正で透明な経営を行います。
4. 私たちは、反社会的勢力とは一切の関係を遮断します。
5. 私たちは、人間の人権と人格の尊重はもとより、各国・地域の文化や慣習に配慮し、社会の発展に貢献します。
6. 私たちは、株式公開企業として、地域社会、取引先、株主、投資家、従業員との信頼と関係を大切に考えます。
7. 私たちは、環境と安全に十分配慮します。
8. 私たちは、お客様に満足して頂くため、化学技術を通じて社会に新たな価値を提供します。

内部通報制度

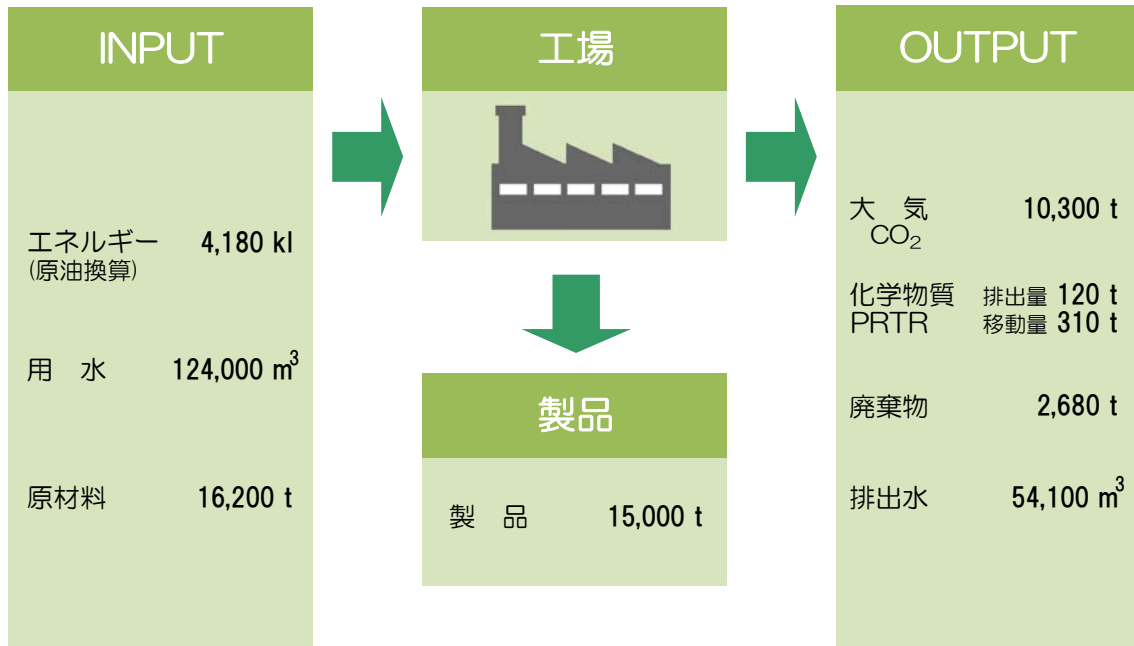


より使いやすく、信頼性もより確保される仕組みを目指して、内部通報制度を運用しています。

環境への取組み

マテリアルフロー

事業活動に伴い投入する資源やエネルギー、排出物質を定量的に把握し、環境負荷の低減や地球温暖化防止対策に役立っています。今後とも省資源、省エネルギー対策とともに、廃棄物の削減、再資源化を推進していきます。



環境マネジメントシステム

ISOの規格が改正され、新規格（2015年版）への移行に向けて運用を開始しました。2017年に移行審査を受け、認証を受ける予定です。

■ マナック環境方針

当社は温暖な気候に恵まれた瀬戸内の地に創業し、今日まで企業活動を展開してきました。

この恵まれた環境を守ることも企業の使命であり、環境保全への取組みを経営の最重要課題の1つと認識し、企業活動を展開します。

当社の事業は、常に化学物質と向き合っています。

化学物質は、その取扱いを一步誤ると、危険で有害なものであり、地球温暖化や環境汚染のもととして危惧されています。

しかし適切な管理下に取り扱えばその用途は格段に広がります。

当社は、化学物質の有益性を生かすために、様々な場面において、環境への影響や、その対策を考えて行動します。

1. 地球温暖化や環境汚染の防止を念頭においた事業活動に努めます。
2. 活動の各段階において、大気への排出の抑制、廃棄物の削減、省エネルギーに取り組みます。
3. 全従業員に対して積極的な教育・訓練を実施し、環境に対する意識と知識の向上を図り、汚染の予防に努めます。
4. 環境保全に関する各種法令・協定等を理解し、順守します。
5. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、定期的にレビューを実施すると共に、継続的改善を図ります。



環境への取組み

省エネルギー

当社はエネルギー管理「特定事業者」であり、生産のほとんどを受け持つ「福山工場」（「第1種指定工場」）を最重点に、全社において省エネルギーを推進しています。福山工場の熱源であるボイラーは、ガス専焼の小型高性能機を台数制御運転しています。一方、電力削減は、工場の原動機を中心としながら事務/生活系での一般電力も含めた省エネに継続して取り組んでいます。また2011年以降は毎年、最大需用電力（デマンド）のピークカットを重点課題とする『節電の夏』に注力しております。2016年夏季は前年デマンド内で維持しました。

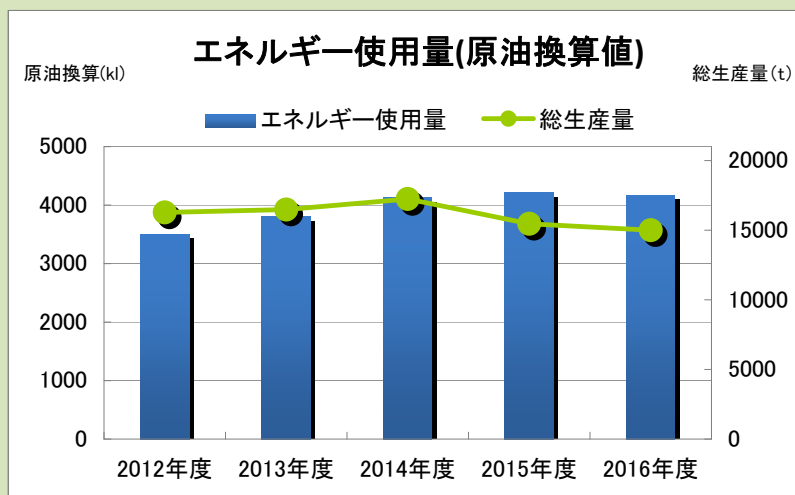
■ 継続中の取組み

- ・ 省エネ型冷凍機、エアコン、高効率変圧器への更新
- ・ LED電灯の導入（生産施設を含む）
- ・ 屋根の遮熱、緑のカーテン、窓の遮光等により空調の負荷ピークを緩和
- ・ クール・ビズ、ウォーム・ビズ並びに、こまめな消灯や空調停止などの節電活動
- ・ 工程の時間調整によりピーク電力をシフト
- ・ 設定圧力（空気圧、蒸気圧）の低下による負荷低減
- ・ 冷凍機系等の定期整備（熱交換部、冷却塔など）
- ・ 配管、トラップ、保温材などの自主保全活動（洩れ、熱ロス防止）



■ エネルギー使用量の推移

高機能製品（小ロット・長工程型）の需要が維持される一方、エネルギー低消費型製品が減退したことから、エネルギー使用量は横ばいながら、単位生産量あたりの使用量がやや増加となりました。



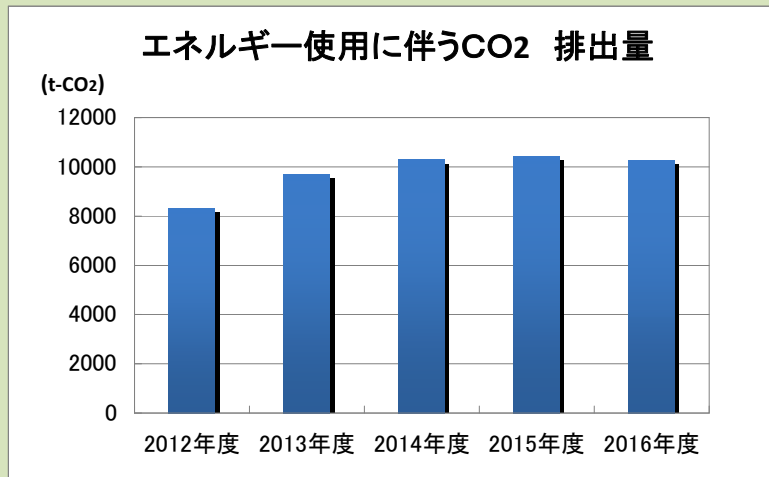
環境への取組み

地球温暖化防止

当社の排出する温暖化ガスのほとんどはエネルギー起因CO₂です。従って、省エネ活動がそのまま地球温暖化の防止活動となります。ボイラーの燃料転換・効率化並びに電力低減に注力する（前頁に記述）とともに、廃棄物発生の抑制（委託先での温暖化ガスの減少に寄与）等にも取り組んでいます。

■二酸化炭素（CO₂）排出量の推移

エネルギー使用量に連動し、CO₂排出量もわずかながら減少しました。

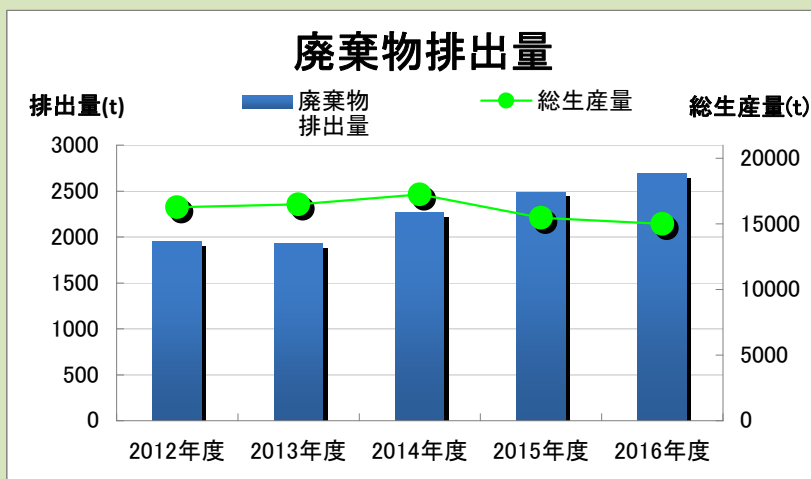


廃棄物削減

当社では、廃棄物の分別回収、溶媒のリサイクル等、廃棄物の適正な処理と再資源化に努めています。また、廃棄物の処理に関しては優良認定処理業者を選択し、3Rの推進を実施して、燃料やセメント原料への転化を行い、循環型社会の構築に貢献しています。

■廃棄物排出量の推移

2016年度は製品構成の変化により総生産量減に対して、廃棄物排出量は増となりましたが引き続き工程等の見直しや社内での3Rを推進し、廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。

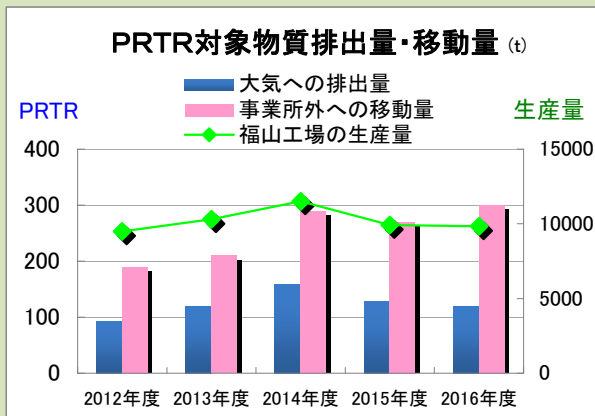


3Rとは
Reduce（リデュース：発生抑制）
Reuse（リユース：再使用）
Recycle（リサイクル：再資源化）
の頭文字をとったものです。

環境への取組み

化学物質の排出管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）に基づき、その対象事業所となる福山工場においては、化学物質の環境への排出量・移動量を把握しています。対象物質の取扱量が増加傾向にあることから、ISO14001システムとも連動し、環境目標活動として継続的に取り組んでいます。



■ 環境目標活動

- ・ 設備 : 密閉化の推進
冷却能力の向上
- ・ 工程 : 作業方法の改善
除害装置の適正使用
- ・ 取扱者 : 適切な取扱方法の教育

※PRTRとは

「Pollutant Release and Transfer Register」

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所からの環境（大気、水、土壌）への排出量及び廃棄物に含まれての事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度です。

環境への配慮

■ 環境配慮型製品「AdBlue（アドブルー）」高品位尿素水溶液設備

ガソリン車に比べて燃費がよく、省エネルギーやCO₂削減の観点から再びディーゼルエンジンが注目され、現在、需要は順調に拡大しています。

当社も需要の拡大に対応すべく、2015年8月に高品位尿素水溶液設備を強化、新設しています。設備は、以前よりも釜容量が大きく、作業スペースも広く設計されていますので、作業性や、生産効率が向上すると期待されています。これからもディーゼルエンジンに対する環境規制は、高度な処理技術が要求される為、厳しい品質規格に適合するように、ライセンスを取得しており、環境配慮型製品として提供しています。



(高品位尿素水溶液新設備)

■ 電動フォークリフトの採用

排ガス対策として電動フォークリフトを採用し、2016年度は11台が稼働しています。

■ ヨウ素の有効利用とリサイクルの推進

限りある天然資源であるヨウ素のリサイクルを推進しています。ヨウ素化合物の効率的な生産体制のみならず、ヨウ素化合物からのヨウ素回収リサイクルシステムを構築し、リサイクルの推進に取り組んでいます。



(電動フォークリフト)

安全衛生への取組み

安全衛生管理体制の確立

福山工場の安全衛生方針は、「基本遵守による考動へ、「事故・災害ゼロ」で社会に貢献“を掲げています。安全、安心の社会的な要請が高まる中で、従業員一人ひとりが安全意識を優先した安全に取り組んでいます。基本的なルール、決めたこと、決められたことは守り、その必要性（なぜ）を考え行動する。各人の自主安全考動と安全衛生グループによる自主安全衛生活動、そして工場全体の種々の先取り安全衛生活動により、事故・災害ゼロを目指し、安全第一の文化を醸成しています。

※「考動」とは、各自がよく考え、行動に移す事を言います。

■安全衛生活動

労働災害ゼロ、職業性疾病ゼロを目指し、従業員が安全で安心して働くことができる快適な職場環境を整備し、安全衛生の水準向上に努めています。

安全衛生の重点施策として5項目とし、また安全衛生委員会と委員会内に設けたワーキンググループにより、テーマ毎に検討を行い、自主的な活動を展開しています。

■重点施策

1. 化学物質による健康障害の防止
 - ・作業管理、作業環境管理の見直し等の継続的な取組
2. ところとからだの健康管理
 - ・目配り、気配り、声かけ 朝礼、始業、終業時のミーティング等により実施
 - ・smile（スマイル）運動「明るい笑顔のあいさつ」からを展開
 - ・健診事後の積極的対応への促進による定期健康診断有所見率の改善の取組
3. 自主安全衛生の取組み
 - ・安全衛生グループ毎の推進と職場の活性化及び感受性の向上
 - ・ヒヤリ・ハット運動の推進
 - ・危険予知活動
KYT（危険予知トレーニング）からKYK（危険予知考動）及び指差し呼称などにより実践型へ
 - ・自部署パトロール 年間計画により実施
 - ・定例・安全衛生職場会議 毎月1回以上、安全衛生グループ単位で実施
4. 5S活動定着化
 - ・エブリデイ10ミニッツ清掃による5S意識の定着
各自で毎日10分間清掃の実施、習慣化
5. リスクアセスメントの推進
 - ・新規設備の導入時、設備変更時に安全点検をリスクアセスメントの手法により実施
危険性、有害性を排除して安全、衛生を確保

■その他の安全衛生活動

1. ワーキンググループによるテーマ別活動
 - ・安全教育の企画（危険物の安全な取扱い、静電気の防災、等）
及び安全の日（毎月1日）の行事の推進
 - ・ヒヤリ・ハット活動の推進及び結果報告
2. 安全衛生パトロール
（役員、産業医、安全管理者、衛生管理者）
3. 全国安全週間、全国労働衛生週間の行事企画推進
4. 外部関連団体との連携安全管理体制の確立



（安全衛生パトロール）

安全衛生への取り組み

健康の保持増進

当社では、従業員一人ひとりが健康に過ごせるよう、年2回の定期健康診断を行い、検診の結果、再検査が必要な場合や、所見がある場合には、産業医による個別のフォローを実施するなど、生活習慣病などの予防に努めています。その他、広島県の健康関連事業と連携し取り組んでいます。

- 産業医による健康管理、衛生の指導
- 産業医による心と身体の健康相談（毎月）
- 日常生活改善指導による健康への支援
- 衛生講習会「睡眠」開催
- 季節要因による流行疾患の情報（毎月）
- 産業医職場巡視による衛生面、健康面の指導（毎月）

心の健康づくり

メンタルヘルス対策として、全従業員を対象とした「心の健康診断」講習会を実施し、心と身体の健康管理に取り組んでいます。

■心の健康づくり計画

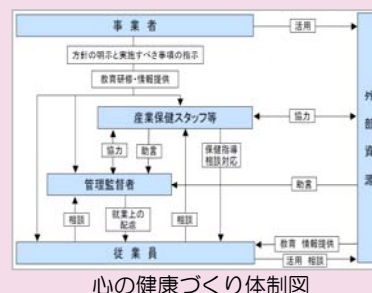
従業員とその家族の幸福な生活のために、また事業場の生産性及び活気のある職場づくりのために重要な課題であり、メンタルヘルス不調への対応だけでなく職場のコミュニケーションの活性化などを含めて広い意味での心の健康づくりを推進しています。

平成27年12月の労働安全衛生法改正により、ストレスチェック制度が創設されました。

ストレスチェックの目的

- ・一次予防。（従業員のメンタルヘルス不調の未然防止）
- ・自分自身のストレスへの気づきを促す。
- ・ストレスの原因となる職場環境の改善につなげる。
- ・メンタルヘルス不調への対応し予防する。

当社では、平成22年に心の健康診断の実施を開始し、平成24年度から心の健康づくり計画により運用しています。



心の健康づくり体制図

■心と身体の健康づくり、明るい職場環境の推進

社外専門家のケアによる、家族を含めた心の健康診断相談の窓口を設置しています。

■メンタルヘルス講習会

従業員を対象として、外部講師の臨床心理士によるメンタルヘルスの講習会を開催しました。演題は「落ち込んだ気分への対処」と題して行われました。

内容はメンタル不調の初期段階で、落ち込みを長引かせず、元に戻す方法の紹介がありました。マインドfulnessという瞑想の手法で自身の精神をコントロールする。「今」に集中、過ぎたことをくよくよと悔やんだり、まだ起きていないことに心を煩わせることがなくなるなどの効果が、期待でき思考、感情の能力向上が出来るようになります。



(メンタルヘルス講習会)

安全衛生への取り組み

保安・防災

工場では、危険物施設や薬品保管施設などでの事故発生（火災・爆発、漏洩）を想定した対応訓練を繰り返し行い、防災に関する継続的なレベルアップに努めています。また、自然災害（地震、津波）への対応と緊急用資材・備蓄品等も定期的を確認し、BCPの一環としております。

【近年の防災訓練実施状況（福山工場）】



年月	事故想定
2011年 5月 11月	地震→薬液配管破損・漏洩「消防合同防災訓練」 大地震～津波時の退避訓練（近隣高台への移動）
2012年 5月 10月 11月	薬液移送ポンプ破損・漏洩 地震～津波時の退避訓練Ⅱ（場内高所への移動） 危険物火災
2013年 6月 11月 3月	設備破損・薬液、ガス漏洩 薬液配管破損・ガス漏洩 （同上）指揮・連絡訓練
2014年 9月 11月	薬液配管破損・漏洩 異常反応によるガス発生
2015年 6月 11月	薬液貯蔵タンク破損・漏洩 高圧ガス接続部破損・ガス漏洩
2016年 5月 11月	ガス接続部破損・ガス漏洩 （同上）指揮・連絡訓練

化学物質安全・物流安全

便利で快適な私たちの生活は、さまざまな化学物質に支えられていますが、これらの化学物質は多くの法令などにより規制されています。各種法令を遵守し、安全な取扱いを心掛けるとともに、SDS、ラベル、イエローカード等により、お客様や物流関係の方にも情報を提供しています。

■GHS対応

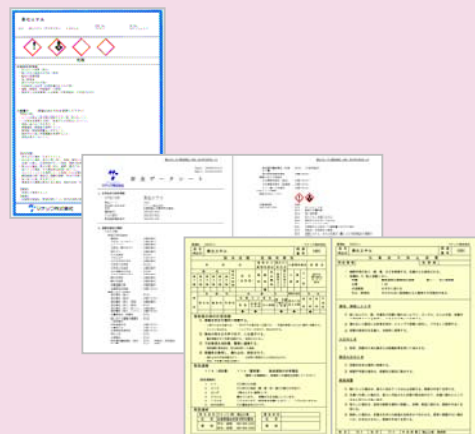
化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）に基づいて、化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かりやすく表示したラベルへの対応を進めています。

■SDS（安全データシート）による情報提供

化学品の安全な取り扱いを確保するために、化学品の危険有害性等に関する情報を記載した文書SDS（安全データシート）をお客様に提供するとともに、社内の担当者にも通知し、取扱い時の注意喚起を促しています。

■イエローカード

万が一の輸送中の事故に備え、物流安全指針に沿って、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を記載した緊急連絡カード「イエローカード」を作成し、輸送中の注意喚起を促しています。



社会との関わり

地域活動

当社では、地域社会の一員として、よりよい社会をつくるための取組みとして、様々な地域活動へ積極的に参加しています。

会社紹介

近隣の学校からの依頼を受け、学生に対して、会社紹介や仕事内容の説明を行っています。これらを通して社会で働くことや企業に対する理解を深めていただく機会を提供しています。



食品衛生功労者・優良施設表彰式

平成28年5月 食品衛生功労者・優良施設表彰式が開催され、弊社郷分事業所が受賞しました。日頃から施設の衛生管理や製品の品質管理等に努めていることが大きく評価されました。



福山ばら祭2016

福山ばら祭は、毎年5月に開催される福山市最大の祭りで、約93万本を超えるばらが、市内いっばいに咲き誇ります。この福山ばら祭りに協賛し、地域の活性化に取り組んでいます。



清掃活動

従業員による事業所周辺の美化活動を行っており、ペットボトルや空き缶などの回収と、除草作業を定期的に行っています。これからも活動を通じて地域の環境美化活動に努めます。



消防競技大会

第48回福山地区消防競技大会が2016年10月に開催されました。地域における消防活動の充実に寄与することを目的として、消火器危険物施設の部に出場し、準優勝等の成績で、上位入賞を果たしました。



箕沖団地協議会ボウリング大会

箕沖団地協議会内で働く従業員の相互交流と健康づくりを目指して2017年1月にボウリング大会が開催され、参加しました。総勢43名で、様々な企業の方との親睦を深めていくことができました。



